

「諸君！ 本夕の憲ある定期總會に議長に選ばれました事は私の最も光榮する處であります。總會は、本會の過去の事業運動方針を吟味清算し、來るべき一年の運動方針を決定すべく極めて重大なる會議であります。

説いては、各議案を充分に審議され、無事にしかも最も有効に本總會を終られん事を希望致します」

と挨拶を述べ、

議長指名にて、副議長を竹内謙助氏に、總會書記として海野、日向二君を任命し、尙議長指名にて

資格審査委員 〇内藤、松井、武居君

會計審査委員 〇増田、山田、石井君

建議案審査委員 〇大塚、金子、竹田君（〇甲 委員長）

を選び、議長振りいしもアザカにドシ／＼進行してゆく。

書記は書記席に、各種委員は夫々別室に退き夫々所管の任務に就く。

此時、議長は本部報告をなさしむべく大塚書記をさし招く。

◆本 部 報 告

（大塚 書 記）

「昭和二年三月十八日を以て開始した争議は、約五旬の日を費やして不幸慘敗におはつた。

爾來残務整理を行ひ、同年七月八日横濱支部に於いて、臨時大會を開き、郵司同友會の再建を決議し、不肖は本部をあつかることになつた。

かくて昨年八月二日臨時總會を開き新しく久留會長をお迎えし、今日漸く、争議後二年にして定期

總會を開くことは、吾々の最もよろこびとするところである。

イ、會 員 数

争議直前に於いて、本會員は約三千四百名を数えてゐた。けれども嚴密に云へば會費完納會員は約二千五百名であつた。

争議直後においては、殆ど全部脱會して郵司相互自治會に強制加入させられ、七月の臨時大會の時は僅々百余名に過ぎなかつた状態である。

その後本部支部の努力により、次第に再組織して、現在では、外航二千三百七十四名近海百五十八名計二千五百三十二名を正會員に數へ、尙争議により除名せられた犠牲者、及び、維持會員等を合すれば優に二千六百名を超えてゐる状態である。

尙之を船別にすれば、一昨年七月の臨時大會の際には僅かに四隻に過ぎなかつたが今日では實に百隻の多數に及び、本會員の居ない船は、僅かに一、二隻に過ぎない状態である。

ロ、會 員 の 素 質

更に従來の組合員の中には、その組合に對する理解及愛會の念に乏しい人が多かつた様に思はれる。又當時の中心勢力は、司厨長であつた。

今日の組合員は、

第一、年齢の點から云つて青年に屬する人が多いこと